

梅若会定式能

能花月 土田英貴



能葛

城

山本

博通

大和舞



能碓潜

松山隆之



松山隆雄
小田切亮磨
山中景晶
鷹尾雄紀
松山統美

令和元年十二月十五日（日）

午後一時開演（正午開場）

梅若能楽学院会館

指定席 八、〇〇〇円

自由席 七、〇〇〇円

能
花
月
土田 英貴

鎌
腹
山本 則俊

能
葛
城
山本 博通
大和舞

仕舞
柏井

能
礎
潜
二位尼ノ靈
大納言局ノ靈
山尾 雄紀
山中 景晶
松山 統美
松山 隆雄
小田切 亮磨
松山 隆之

村瀬 慧
柿原 孝則
栗林 祐輔
森澤 勇司

間山本 則秀

後見 梅若 紀彰
角当 行雄
地謡 井上 燎治
山中 章弘
山尾 梅若長左衛門
昇

山本 則俊

山本 則重
山本 則秀

御厨 誠吾

安福 光雄
清水 和音
林 雄一郎
藤田 次郎

間山本 凛太郎

後見 梅若 基徳
小田切 康陽
地謡 山中 景晶
井上 晃平
和幸 梅若 角当
山崎 直隆
正道 実

筒
角当 直隆
梅若 雄一郎
小田切 康陽

地謡 梅若 紀彰
鷹尾 章弘

《休憩十五分予定》

大日方 寛

幸 大倉慶乃助
正昭 大川 典良
松田 弘之

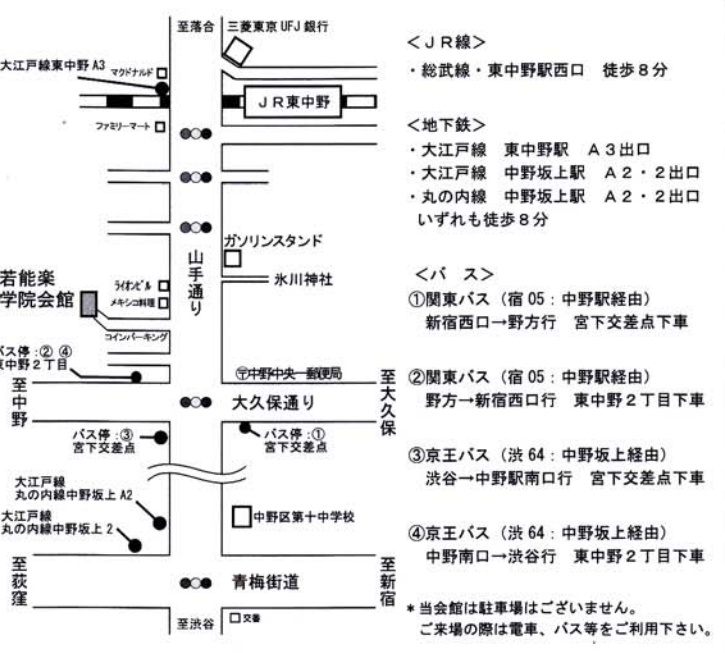
間若松 隆

後見 山中 迩晶
赤瀬 雅則
地謡 梅若 友一郎
山崎 友一郎
内藤 幸雄
幸雄
角当 小田切 直隆
直隆

『花月』七歳の我が子が行方不明になり出家した僧が、旅の途中で花月という名を耳にする。花月は清水寺の花の下で流行の小唄を謡い、花を散らす鶯を弓矢を使って戯れ、清水寺の縁起などを曲舞に舞う。これを見た旅僧は花月が行方不明になった我が子と気づき、花月に話を聞くと七歳のとき父親にさらわれ諸国を巡る身の上と聞かされる。親子を確信した旅僧は花月に父親だと名をわ二人は再会を喜ぶ。花月は門前の者にすすめられた羯鼓を奏しげに打ち、天狗にさらわれてから山々を回った思い出を舞い示す。やがて花月は寺をあとに父と共に仏道修業の旅に出る。

『葛城』くづらき旅山伏が葛城山に修業に入ると大雪に悩まされる。山伏は里女に案内された庵で小枝の火により暖をとり、黒衣も乾いた頃後、夜の勤行を始めようとする。すると里女は自分は葛城の神で、明王からの岩橋を架ける命令に自分の姿を恥じ夜しか作業をせずに罰せられ、今は葛城くづらきに帰らねられ三熱の苦を受ける身だと明かすと、自ら加持祈禱を山伏に頼み姿を消す。山伏が終夜祈禱を続けると葛城の女神が現れ自分への祈禱を喜び大和舞を舞うが、朝暁が近くなると自分の容姿を恥じらい暗い夜の岩戸の中へ消えてゆく。

『礎潜』いかりかずき平家に縁故のある僧が平家一門の跡を弔おうと長門に下り早瀬の浦に着く。そこへ現れた老人の舟に乗り、この浦の戦物語を聞く。老人は平家の敗戦が色濃くなり、平教経は安芸太郎、次郎兄弟を左右の脇に挟み、海底に沈んだ様を語ると、その時の亡霊だと告げ姿を消す。僧が吊っていると海上に大船と共に、平家最後の場面が浮かび上がった。やがて僧の眼前は修羅道の有様となり、平知盛が頭上に礎を戴き海中へ飛び込む壮絶な最期の姿を見た。



〒164-0003 東京都中野区東中野 2-6-14
公益財団法人 梅若会 (梅若能楽学院会館)
TEL: 03-3363-7748 FAX: 03-3363-7749

【観能チケットについて】

- 1. 自由席 7,000円 指定席 8,000円 学生席 3,000円
 - 2. 賛助会員券 (定式能) および自由席をお持ちの方は 1,000円プラスで正面のご希望のお席を確保いたします。公演1週間前までにお電話にてご予約下さい。準賛助会員券 (梅流会) をお持ちの方は 1,000円プラスで自由席にてご観能可能です。
 - 3. チケットはお電話、またはファクスにて郵便番号、ご住所、お名前、ご連絡先電話番号、ご希望席種をお書きの上お申し込み下さい。TEL 03-3363-7748 FAX 03-3363-7749) 尚梅若会ブログにて受け付けております。(パソコン: <http://umewakanoh.exblog.jp/> 携帯: <http://mblog.excite.co.jp/user/umewakanoh/>) 詳しくはお電話にてお問い合わせ頂くか梅若会ブログをご覧ください。
 - 4. 都合により出演者、曲目に変更がある場合がございます。
- *ロビーにて軽食、コーヒー、ケーキ等の販売がございます。皆様ご利用下さい。



助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会